

IAUD Newsletter vol.5 第13号 (2012年11月号) 目次

1. 「第1回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」実施報告・・・・・・1
2. 「第4回国際 UD 会議 2012 in 福岡」開催報告第3弾／
IAUD 研究部会 ユニヴァーサルトーク開催報告・・・・・・4
3. 国内外の UD 動向・・・・・・17
4. IAUD 12月の予定・・・・・・17

IAUD 新事業がスタート～UDの基礎的理解度を確認 特集：第1回 UD 検定・初級 講習会&検定試験実施報告



IAUD が UD の更なる普及と実現をめざす活動の一環として新たにスタートさせた「UD 検定」の初回となる「第1回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」が10月14日(日)、「第4回国際 UD 会議 2012 in 福岡」に併設して実施されました。
検定の概要と当日の様子について、UD 検定を担当している IAUD 検定委員会の西川昌宏氏と奥田高子氏に報告していただきます。

UD 検定とは

UD 検定は、IAUD が UD の更なる普及と実現をめざす活動の一環として開始したものです。IAUD の UD 検定は、以下の3点を目指しています。



- ① 国内最大の UD 推進団体である IAUD らしい幅広い領域をカバーする。
- ② UD 製品・サービスの開発ツール (IAUD UD マトリックス) 作成ノウハウと実績を活かす。
- ③ 商品を選ぶ上での基礎知識取得や製品開発など、一般の生活者にも企業にもメリットを提供できるものにする。

今回の国際会議で実施したのは初級ですが、IAUD では今後、中級、上級と段階的に整備し、順次展開していく予定です。それぞれの対象者については、下記を想定しています。

UD 検定 想定対象者

- [初級] 使う人：広く一般の消費者。障がいをもつ方や高齢者をはじめとする UD 関連商品の消費者も含む。
- [中級] 推進する人：自治体の都市・街づくりに関わる担当者。次の一手を考えている企業や行政のリーダーやマネージャー。
- [上級] 作る人：事業・商品・サービスのプランナー・開発に関わる担当者。

講習会と検定試験のセット形式

「第1回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」は、「第4回国際 UD 会議 2012 in 福岡」の最終日である 10 月 14 日（日）9 時～12 時に、福岡国際会議場で実施されました。実施のお知らせが直前だったにも関わらず、当日は約 40 名の幅広い年代や職業の方々にご参加いただきました。

初級検定試験は、商品やサービス等を正しく選択できる知識・能力を身につけていただくことを目的に、UD に関する基礎的、基本的知識を学習する集合制の講習会（2 時間）と、理解度をテストする検定試験（1 時間・50 問）の二部構成のセット形式とし、UD に興味のある一般生活者の方も、気軽に参加できるようにしました。



3名の UD 専門家による講習会

今回は、講習会テキストの執筆と検定試験の出題及び当日の講習会講師を、静岡文化芸術大学・古瀬敏教授、東洋大学・川内美彦教授、京都工芸繊維大学・久保雅義教授にお願いし、ご担当いただきました。



古瀬教授

川内教授

久保教授



最初に古瀬教授より、UD7原則を含むUDの基本的な知識として、概論の講義がありました。

続いて、川内教授からはUDの配慮事例①として、使いやすさへの工夫や触覚、視覚などによる情報提供の必要性をお話いただきました。

最後に、久保教授からは配慮事例②として、作業性・動作性への配慮や安全性・安心への配慮事例などをご紹介いただきました。

約2時間の講習会で、日常の生活の中でもUDが重要であること、そして、それらの取り組みがサステナブルに次代に引き継がれていくことの大切さを参加者の方々にご理解いただきました。

受験者全員が合格ライン

講習会后、1時間で50問の検定試験をPBT（ペーパーテスト）・マークシート方式で実施し、第1回UD検定・初級講習会&検定試験が終了しました。

近日中に、受験者には試験結果が通知され、合格者には「UD検定初級資格証」が発行される予定です。講習会で講義を聴き、その場でご自身が理解されたことの確認の意味合いで受験できたこともあり、全ての受験者が合格ラインである総合得点の70%以上を満たしているという高成績でした。



UD検定実施後のアンケート結果は、下記の通りです。

第1回UD検定・初級講習会&検定試験アンケート

① 講習会について

講義の難易度：「適当」約60% 「やや易しい」または「易しい」30%。

実施時間の長さ（今回は2時間）：「適当」70%以上

講義内容：「役立つ」または「やや役立つ」90%以上

② テキストについて

理解度：「ややわかりにくい」45% 「わかりやすい」35%

ボリューム：「適当」50%以上 「やや少ない」35%

③ 検定試験について

設問の難易度：「適当」60%以上 「やや難しい」20% 「やや易しい」20%

実施時間の長さ（今回は1時間）：「適当」60% 「やや長い」40%

お役立ち度：「役に立つ」80%以上

80%以上が「役に立つ」と評価

講習会の講義内容については、高い評価をいただきました。「易しい」とされた方が少なからずいらっしゃいましたが、すでにUDに関わる業務に携わられている方にとっては、既知のこともあったのではないかと思います。

テキストについては、「写真や図などビジュアルがあった方がよい」というご意見を多数いただきました。内容やボリュームなど、一層のテキストの充実を求められており、改善が必要だと考えています。

最も重要な検定試験のお役立ち度については、80%以上の方に役に立つと評価をいただきました。また、講習会と検定試験の同時実施につきましても、ほとんどの方に「効率的でよい」との評価をいただきました。

さらに、「UDについて理解できた」「とても素晴らしい検定だと思う」といったご意見や、「具体的なUD事例など作り手だけでなく、日常的に役に立ちそうな話も多かったので、より幅広い方が受講してUDに興味をもってもらえる講習会、検定にしてほしい」といった建設的なご要望もいただきました。これらは、IAUDの掲げるUDの更なる理解・普及に合った活動という評価をいただいたものと考えております。

2回目は東京で来年3月実施

初級検定は、今後も集合制の講習会と理解度をテストする検定試験の形式で行いますので、2回目は、2013年3月に東京で開催される「IAUD 成果報告会」に併設しての実施を予定しています。

講習会のテキストや問題の出題形式などについては、アンケートのご意見も踏まえ、ブラッシュアップしてまいりますので、ぜひ、幅広い方々の参加をお待ちしています。

また、次のステップとして、中級検定については、コンピュータで全国の方に受験できるような形式で計画しており、事前学習用の教科書の作成など、鋭意準備を進めつつあります。詳細が決まった時点でお知らせしたいと考えております。(了)



「第4回国際UD会議 2012 in 福岡」開催報告第3弾： IAUD 研究部会 「ユニヴァーサルトーク」開催報告

10月12日(金)から10月14日(日)に福岡国際センターにおいて一般公開で開催された「第4回国際UD会議 2012 in 福岡」併設展示会では、IAUD 研究部会の活動成果が紹介されました。また、13日には「ユニヴァーサルトーク」が行われ、詳細な活動内容が発表されました。

今号ではユニヴァーサルトークの概要を、情報交流センターの蔦谷邦夫氏にご紹介いただきます。



「暮らし」をキーワードに活動紹介



IAUDの研究部会は現在、9つのプロジェクト／ワーキンググループ（以下 PJ/WG）がそれぞれのテーマに基づいて活動しています。

今回の国際会議では、併設展示会の IAUD コーナーにおいて、各 PJ/WG の取り組みを活動成果の展示やパネルで紹介するとともに、「IAUD 研究部会ユニヴァーサルトーク」と題し、各 PJ/WG から詳しい活動内容をプレゼンテーションしました。

一般の来場者にも分かりやすいよう、「暮らし」をキーワードに【暮らしの基本】【暮らしの支え】【暮らしのゆとり】という3つのくくりでまとめて、各 PJ/WG の活動を紹介しました。なお、発表の内容は同会場に展示したパネルにまとめられているため、ここでは各 PJ/WG の展示パネルを掲載させていただきます。

「IAUD 研究部会ユニヴァーサルトーク」プログラム

【暮らしの基本】 13：00～14：00

- 衣の UD プロジェクト：災害時にも使える UD ジャケット
- 食の UD プロジェクト：「やけど注意」ピクトグラムの提案と普及活動
- 住空間プロジェクト：震災・仮設住宅と UD&UD プラス

【暮らしの支え】 14：00～15：00

- 移動空間プロジェクト：安全で快適な移動
- プロモーション映像ワーキンググループ：IAUD 広報映像制作
- 労働環境プロジェクト：テレワークの UD
- 標準化研究ワーキンググループ：ユーザー多様性等を配慮した UD マトリックス

【暮らしのゆとり】 15：00～16：00

- 余暇の UD プロジェクト：テレビコマーシャルにも字幕を
- メディアの UD プロジェクト①：UD とイメージに配慮した配色
- メディアの UD プロジェクト②：見分けやすいハザード情報分析



【暮らしの基本】

■衣のUDプロジェクト：災害時にも使える UD ジャケット

衣のUDプロジェクト
研究部会

概要

機能性とファッション性の融合

「ユニヴァーサルデザイン」という万人に受け入れられることを目的としたデザインと「ファッション」という個性や流行を重視したものという一見相反する概念を融合させることをテーマに活動を続けています。

＜その機能は美しいか＞

衣のUDプロジェクトの目指すものは「人にやさしい」「機能性のある」「ファッション」をしっかりしたカタチで世に出すこと。

↓

それには〈産学共同〉作業は必須事項

産

- ・新しい素材・副素材の情報と提供
- ・製品化による社会貢献

学

- ・衣服の学問的見地、ファッション情報
- ・評価・検証とデータ収集

産・学共同で研究に取り組む

衣のUDプロジェクト
研究部会

研究テーマ

UDジャケットの研究開発

日常性がありタウンでも着られる多機能なUDジャケットの開発

袖口のファスナーで腕の通しをスムーズに

袖下がシームレスなので肘が通りやすい

収納力抜群のファスナーポケット

ファスナーは左右使いやすい方向から使用できます

災害時のUD衣料とは何か？

大災害の避難中に衣服を選ぶ余裕は無い

↓

その時、真に役立つ衣服とは何か？

↓

今、災害用衣料はどのようなものがあり実際は何が必要とされているのか

↓

研究を続け実用的な衣服を作り、広めたい

2つの研究の融合

災害時にも役立つUDジャケットの開発

ファスナー付ポケットを増やし災害用品をより多く収納

フードにショックアブソーバーを入れ衝撃を和らげる

再帰反射テープを多用し、暗闇での救助に役立つ

衣のUDプロジェクトでは製品化にあたり協力企業を募集しております

■食のUDプロジェクト：「やけど注意」ピクトグラムの提案と普及活動

食のUDプロジェクト
研究部会

概要



食のUDプロジェクトとは…

「食生活」をUD視点で快適に



「食のUDプロジェクト」は、2006年の発足以来、UDの観点から主に「食」に共通する課題をテーマに活動してきました。「食」は人が生活をする上で最も重要な行為のひとつです。私たちは生活者にとって快適な「食」のあるべき姿を考え、そのアプローチを行っています。

1. 「やけど注意」ピクトグラムの標準化推進

新ピクトグラムの提案と普及活動

日本での標準化を目標とする「やけど注意」ピクトグラムを作成。「JIS消費者用警告図記号一試験の手順JIS S 0102」準拠試験の合格基準点数をクリアし、国際ユニヴァーサルデザイン協議会から2010年4月にリリース。生活者に伝わりやすい「やけど注意」図記号として公開されました。



IAUD よりリリースされた「やけど注意」「蒸気注意」ピクトグラム3種

児童向け壁新聞紙面での紹介

食のUDプロジェクト
研究部会

研究テーマ



2. 食生活に関する実態調査

生活者が「食」に関して感じている率直な気持ちを把握する「生活者実態調査」を4年連続で実施しています。今回は日本人が、どのような食生活を送り、「食」に関してどう考えているかを調査しました。

※以下は調査結果の一部抜粋です。

「食事」で重視する事は？

質問

あなたが食事を選ぶ際、食事をする際、重要視することは何ですか？
(複数回答 2項目まで)

項目	男性	女性	合計
美味しさ	535	566	1,101
価格	409	376	785
栄養バランス	148	225	373
ボリューム	155	75	230
カロリー		113	113
原材料・産地		86	86
メーカー等のブランド		14	14
アレルギー		11	11
その他		6	6

「栄養バランス」は、50代以上の男性と10～60代女性の支持が高い。10～40代男性は、「栄養バランス」より「ボリューム」を優先的に選んでいます。

3.11後、食生活に変化は？

質問

震災後の放射能問題により、あなたの食生活に関する意識、行動に変化はありましたか？
(複数回答 3項目まで)

正しい知識を得る必要性を強く感じている	434
原材料の産地や成分表示に関心するようになった	357
食生活に関する意識が高まった	277
もっと、情報がほしい	258
なるべく手作りするようになっている	200
食生活に関する意識が高まった	136
周囲の食生活に関する意識が高まった	134
外食は控えている	102
子供には手洗いや食器の消毒を徹底している	85
特に変化はない	529

「食のUDプロジェクト」では「食」を見つめ、「食」がより快適で楽しくなるような工夫や配慮を、パッケージや表示デザイン、食の提供方法などを通じて、今後も探求していきたいと考えています。

■住空間プロジェクト：震災・仮設住宅と UD&UD プラス

住空間プロジェクト
研究部会

概要

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、生活シーンからのアプローチによるテーマ研究を進めており、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

1. 機能低下を防ぎ向上させる、新たなUDの提案

身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで、機能低下を防ぎ向上させるというUDプラスのコンセプトで、新たなUDのあり方の事例研究に取り組んでいます。

仮説：『UDプラス=モチベーション × 環境・機会』

■UDプラスの考え方

■UDプラスコンセプトの気付きと検証

- UDプラスの気付きにつながる先進事例調査例
 - 【三鷹天命反転住宅】: 日常生活における身体機能・感覚機能への刺激自由に工夫できる室内
 - 【高知沢田マンション】: セルビルドによる自給自足の環境共生住宅コミュニティの活性化
- UDプラスコンセプトの検証とコンセプト共有ワークショップ
 - 【早稲田大学との共同研究】: 日常生活において、空間(環境)や生活行為の質(仕掛け)により行動の達成感や楽しさが増大する効果を検証
 - 【夢のみずうみ村ワークショップ】: 一日の活動を自分で選択できるサービスセンター施設内通などの導入により自発的な活動を誘導

住空間プロジェクト
研究部会

研究テーマ

2. 震災・仮設住宅とUD&UDプラス

■震災における仮設住宅をテーマとした活動

2011	2012	2013
3.11 震災発生	3.11 テーマ検討	3.末 活動まとめ
	5.25 WS開催	9.07 国際会議発表
	6.14 7.12 フレーム検討	10.12 継続検討
	8.07 勉強会開催	9.26 現地視察・調査
		成果報告会

■UD & UDプラス視点による仮設住宅での気づき

point1. 駐車場または道路と住戸の関係

夜中に隣でドアを閉める音に驚く(高齢者)
車は必需品 ▶ 地域事情に応じた配慮

駐車場でない場所に停められ、救急車が来たときに困った
地域事情に応じた配慮

車止めにつまづいてケガをした人がいる

point2. 住戸と住戸の関係

掃きだし意匠と路地裏的な井戸端会議の場になる
近隣との交流のしやすさ、生活音の意味

玄関が隣合わせだとどちらの来訪者がかわからない
共用部分を活かしていきたくない

point3. 住戸内の間取り

またたくのが大変
基本的な安全・安心の確保

段差が困る

滑るのが不安で縁柱からゴザに

浴室から遠い洗濯機置場

室内の収納不足→外物置

point4. 共有スペース

集会所に置かれたマッサージチェアは交流のきっかけになっている
集会所の工夫

公共の場での『自分の家』感が大切

集会所は数地の外れにある

もしもの時のために
事前の取り組みが大切

- ①基本的なUD配慮の確保
標準化すべきもの、オプション対応すべきもの、を事前に明確化
- ②UDプラス視点の配慮
入居者の活動量を維持し身体機能低下を防止
- ③地域特性への配慮

ガイドライン化

事前検討・対応策定

目指すべき方向
地域特性に応じてガイドラインをカスタマイズして運用できる仕組みへ

【暮らしの支え】

■移動空間プロジェクト：安全で快適な移動

移動空間プロジェクト

研究部会

概要

公共交通のシームレスな移動空間の実現へ

移動空間PJは、「情報の継ぎ目のない移動環境の実現」を目標に研究活動を行っています。

- 「移動情報の調査手法研究」として案内情報の調査シートを作成し、実地検証を行っています。また、調査シートのタブレット端末アプリ化による更なる利便性の追求も模索しています。
- UDの更なる普及を目指して、プロモーション映像制作を起案し、PJ横断プロジェクトの運営を担当しています。

●活動目標

情報の継ぎ目のない移動環境へ

●活動の経緯

~08	2009	2010	2011	2012
移動情報の調査手法研究	具体的案件の調査、提案 「J日静岡駅から新静岡駅周辺」 ~調査手法の利用~	具体的案件の調査 「羽田空港新国際線ターミナル」 ~有効性の確認~	具体的案件の調査 「渋谷駅調査」 ~使いやすさの評価~	具体的案件の調査 「渋谷駅調査」 ~使いやすさの評価~
調査シート2008	●プレ調査 ●調査シートの改善 ●本調査 ●調査結果まとめ・分析 ●提案指針、アイデア抽出 ●Web公開 ●ニュースリリース発信	国際UD会議(浜松) アイデア提案 公開報告	●調査 ●調査シートの改善 ●調査結果まとめ・分析 ●静岡調査との比較 調査シートの有効性を確認 ●ニュースリリース発信	●調査 ●調査シートの改善 ●調査シートのアプリ化検討
普及活動			総研会(移動空間プロジェクトのモチベーションアップ) 有識者との意見交換会	IAUDプロモーション映像制作

●メンバー 理事: 河原 弘(トヨタ自動車) 主査: 内山和也(トヨタ自動車) 副主査: 津田 学(NTTデータ) 副主査: 尾川まり(クラリオン) 副主査: 横川浩大(総合車両製作所) 事務局: 加藤 寛(カルソニックカンセイ) 山本真也(NTTデータ) 伊賀公一、岡川恒輝(カラーユニバーサルデザイン機構) 渡邊 聡(個人賛助会員) 森 幹太(サンデン) 前田亮一(たいとう診療所) 井藤孝一、松井潤二(ダイハツ工業) 後藤史子、竹下友美(OICカラーデザイン) 清水 由美子(東京都市大学) 和田紀彦(日立製作所) 西田尚之(日野自動車) 堀内 陽子(Proton2 Design Associates) 御影幸直(ヤマハ) 福井美佐(ヤマハ発動機) 伊藤聡一(rolo.Concept)

移動空間プロジェクト

研究部会

研究テーマ

調査シートのタブレット端末アプリ化を検討

調査シートの使いやすさを検証。アプリ化の際の課題を抽出。

移動情報UD調査手法をブラッシュアップ

→調査シートのアプリ化を検討。調査の省力化や利用者拡大を図る。

●調査概要

[目的] 「移動情報UD調査シート」使用時の調査者視点の問題点を整理

[手法] 研究・試行してきた「移動情報UD調査シート」を使用

[調査ルート] 1.東急東横線渋谷駅改札→渋谷駅西口(スターミナル18番乗り場)
2.京王井の頭線改札→地下通路→東京メトロ副都心線渋谷駅改札

●抽出された課題

[評価項目について]

- ・項目の意味がわかりにくい(検索性、見つけやすさ・わかりやすさの違い等)
- ・項目を追加したい(床面サイン、危険性の評価、ピクトグラムの有無等)
- ・調査協力者属性に応じた評価項目が設定できると良い(外国語情報、点字情報等)

[記入欄について]

- ・記入欄の自由度が低い(サイズが小さい、行数の不足等)
- ・調査協力者属性の記入欄がない

●アプリ化のメリット

- 1.調査データを容易に活用できる
- 2.GPS、カメラ機能等、タブレット端末に備わっている機能が利用可能
- 3.わかりやすい操作性を実現することで、調査の説明を省力化できる
- 4.タブレット端末があれば、誰でもすぐに調査できる

↑画像はイメージです。

紙媒体での対応は困難。
デジタル化することで評価項目や記入欄のカスタマイズを容易に。

●今後の展望

- ・移動情報UD調査シートのタブレット端末アプリ化を検討
- ・各評価項目の判定基準を明確化
- ・調査者の属性と調査結果を集計
- ・比較、分析の方法を検討

プロモーション映像ワーキング活動
研究部会

IAUD 広報映像制作



概要

- 企画趣旨** IAUDは各プロジェクトや様々なワーキング活動を通してユニバーサルデザイン(UD)の啓蒙と実践を行ってきました。更なるIAUDの認知度向上とUDの普及を目指し、プロモーション映像制作を企画。幅広い人々への訴求性を考慮し、日本の得意とするアニメーション手法を採用しました。
- 運営体制** 参画PJ:余暇のUD / メディアのUD / 住空間 / 衣のUD / 食のUD / 移動空間
代々木アニメーション学院様の全面的なご協力を得て、初のPJ横断ワーキングとして移動空間PJが運営を担当しました。
- ストーリー** “シームレス・ソサエティ”
高校生と老人の触れ合いを通じて、何気ない日常風景から健常者・社会的弱者が共に生き生きと活動している近未来のUD社会を描く。
- 設定、字幕、配色へのUD的配慮**



代々木アニメーション学院様による設定作業



シネスコサイズを採用し、十分な字幕スペースを確保
黒地固定字幕により、安定的な見せ方を工夫



Illustrator/Photoshopの色弱シミュレーション機能を活用して、CUDIに配慮した人物配色

●メンバー 余暇のUDPJ: 山田淳司(株式会社DNP映像センター) メディアのUDPJ: 永井えいし(株式会社DNP映像センター)
衣のUDPJ: 伊豆野隆信(NPO法人ユニバーサルファッション協会) 食のUDPJ: 平山裕一(有限会社プロキューブ) 住空間PJ: 小泉しをり(積水ハウス株式会社)
移動空間PJ: 内山和也(トヨタ自動車株式会社) 陽川まり(クラリオン株式会社) 西田尚之(日野自動車株式会社) 加藤 寛(カルソニックカンセイ株式会社)

プロモーション映像ワーキング活動
研究部会

IAUD 広報映像制作



劇中アイテム紹介

近未来UI

コンタクトや眼鏡に情報を立体表示させ音声や手で行う自然なジェスチャー操作




電動PM「e-Su」

仰々しさを無くしたより自然な椅子としての使い勝手を追求



AI白杖「e-Stick」

光とGPS等のインフラによる歩行支援を想定



UDジャケット

機能と美しさを両立し様々な人が着用可能
※詳細は衣のUDPJブースでご覧下さい



MOOMAP NEO

複雑な経路を直感的に理解できるデジタル3Dマップ



労働環境プロジェクト：テレワークのUD

労働環境 プロジェクト
研究部会

概要

テレワーク×ユニヴァーサルデザイン

労働環境プロジェクトでは、様々な特性をもつすべての人が気持ちよく働ける未来の労働環境を目指して活動しています。

『テレワーク』について

◎ 東日本大震災をきっかけに、通勤困難や節電の対策として、テレワークへの注目が飛躍的に高まりました。

◎ またICTの進歩を背景に、ワークライフバランスや柔軟な働き方に対する関心が高まっています。

節電対策
帰宅難民

通勤困難

仮設住宅
就職困難

FOCUS!

本プロジェクトでは、場所や時間にとらわれないユニヴァーサルな働き方である「テレワーク」のうち、「在宅勤務」に着目し、UDに関する研究及び情報発信を目指します。

テレワークの分類

- 衛星ワーク
- 在宅ワーク
- モバイルワーク

『ユニヴァーサルな働き方』の先進事例を調査

エイブル・アート・ジャパン様

多様性や特性を活かしたワークスタイルの先進事例

表現力のある障害をもったアーティストと企業をつなぐNPO法人。著作権ビジネスやワークショップなど積極的に活動。

障害の有無によらず、クリエイティビティを多様性の一つとし「労働観を変えるワークスタイル」を実現。

co-lab 二子玉川様

コワーキングによる共創ワークスタイル事例

企業・自治体・有識者・地域住民など、セクターを超えて交流するオープンイノベーションのための共創の場。

「コミュニティによる共創の場」で様々な特性を活かし、新たな雇用機会やワークスタイルを提案。

“cococi” Coworking Space様

育児女性のエンパワメント地域密着型のワークスタイル

「育児」と「仕事」をゆるく繋ぎ、両立の難しいこの2つを可能にした「マルチレイヤ暮らし」を実現する仕組みを提供。

多様な経験や才能をもつ女性たちがつながって、「地域資源が集まるコワーキングスペース」を構築。

労働環境 プロジェクト
研究部会

研究テーマ

テレワークに関する調査と方針

1. テレワークの意識調査 (WEBによる定量調査)

◎ 在宅勤務をしたことがありますか？

◎ 今後在宅勤務をしたいですか？

いいえ 85.9%

はい 14.1%

していません 66.8%

してほしい 33.2%

テレワークへの意欲は高いが経験者は少ない

WHY?

仕組み
制度に関する課題

コミュニケーション&環境
人に関する課題

UDで解決!

人を中心とした多様性に配慮した深掘りが必要

首都圏を中心とした三大都市圏の大手企業500人に対するインターネット調査(労働環境プロジェクト調査)

2. テレワーク実施者とのワークショップ

スマートハウス「観環居」でのワールドカフェ

※テレワーク経験のあるNTTデータ様、NTTデータいち様(4名)を含め計10社16名が参加

「テレワーク×UD」に関連する4つの分析

A コミュニケーション

- ちょっとした会話や、支え合いが実は重要
- 急な呼び出しに対応できない
- 寂しい人間関係が醸成になる
- 相手の気持ちが伝わらない

B ICT環境

- 家の環境・設備ではできないことが多い(専門ソフト、ハイスペックPC)
- トラブルの対応ができない
- セキュリティを確保できない

C 在宅環境

- 自宅には仕事に集中する環境が作れない(音・照明・子供・専用スペース)
- 必要な情報が電子でしか参照できない

Dモチベーション

- ON/OFFの切り替えが難しく非効率
- 気が散り、ながら仕事になってしまう
- 逆に気分転換ができない
- 通勤がなくなると季節感が感じられない

詳細: |AUD Newsletter Vol.5 -> http://www.iaud.net/dayto/archives/1207/04-180216_2ip

3. 新しいテレワークの方向性 (仮説)

調査・ワークショップの結果から**新たな方向性**及び、**モデル環境**を提案

◎ 見えてきた新たなテレワークの可能性

持続性 (MORE 付加価値をプラス)

創造性

新しいワークスタイル

多様性

新しいテレワークの可能性

現在の在宅勤務

ワークライフバランス

合理性 (CARE マイナスを減らす)

自律性

◎ モデル環境の構築に向けて

場所や時間にとらわれない多様性を活かしたテレワークスタイルを発信

— OFFICE — HOME — 3rd PLACE —

ポータブルなワークスタイル

記事: 観環ハウス、主催: 富士通デザイン、副主催: 住友スリーエム株式会社、メンバー: イトーキ株式会社、株式会社リコー、パナソニック株式会社、キヤノン株式会社

■標準化研究ワーキンググループ：ユーザー多様性等を配慮したUDマトリックス

標準化研究ワーキンググループ
研究部会

概要



活動紹介

産業全般のUDレベルの向上にむけて、共有すべき情報やルール（規格化）の研究を行なっています。使い手を正しく理解するために「多様な人の属性」に着目し、「IAUD・UDマトリックス」を公開しています。

IAUD・UDマトリックス (Excelデータ配布はIAUD会員限定)



多様なユーザを想定する
タスク分析ツール

Web版 情報集・事例集



2011年度改訂 「検索機能」を追加し
利便性を高めました。

開発シーンを補完する
3つのIAUD・UDマトリックス

多くの人で共有でき
検索性の高いツール

冊子版 情報集・事例集



開発現場へ持ち込んで
素早く参照するツール

標準化研究ワーキンググループ
研究部会

研究テーマ



2011年度の活動

1. Web版マトリックスに検索機能追加の改善を行ない、知りたい情報を探しやすくしました。
2. 最新の情報収集と次の取り組みテーマを模索するために、多様な講演会・意見交換会を開催しました。

主な講演会・意見交換会

「国際標準戦略」
産業総合技術研究所・持丸正明センター長

- ・標準化は、従来にない新しい価値をグローバル化させることができる。
- ・標準化は、より有利なルールで戦い、より良い社会に貢献するものである。

「やさしい日本語」
大東文化大学・前田理佳子講師

- ・情報弱者(外国人等)を減らす「減災」の取り組み
- ・わかりやすく伝える情報整理と再構築の手順
- ・やさしい日本語作成支援ソフト「YANISIS」の紹介

「ポスト3.11に求められるデザイン」
日経BP社・下川一哉白昼デザイン編集長

- ・命を守る・生き残る為のデザイン
- ・新しい未来を切り開く為のデザイン
- ・普段の生活で使え、災害時も役に立つデザイン

各詳細はIAUD Newsletter掲載

今後の活動のキーワード

- UDプロセスの標準化、グローバル化
- カラーUDの標準化
- 低い環境負荷、市場多様性を考慮したUD
- 安全ピクトグラムの標準化
- 電力パッケージの標準化

2012年度の計画

- ① 多様なユーザに対応した活動への更なるスパイラルアップ。
⇒IAUD・UDマトリックスへの織込み内容及び表現を精査して充実。
- ② 震災後に求められるUD標準化の対応強化。
⇒『震災グッズの使い易さワークショップ』を本国際会議の場所で開催。
- ③ ユーザ多様性、環境変化、グローバル化に対応した活動の施策検討。
⇒手話用語サブW/G立ち上げ、活動計画を紹介しメンバー募集中。

活動紹介

標準化ワーキンググループでは、手話用語サブワーキンググループを発足させ、2012年度より手話をテーマとした新たな取り組みを開始いたします。

現状での課題点

機能名称やサービス用語の多くは手話化されていません。手話がないものは、指文字で1字を1つずつ表現する必要があり、時間がかかるため伝えにくく、手話使用者が理解しづらいときがあります。手話における「話し手」と「聞き手」どちらにもわかりやすい、簡単な手話にすることが求められています。

解決に向けた取り組みの例 ※ツイッター、エコロジーは日本手話研究所の活動により標準手話に確定されています。

指文字	ツイッター (2008年~)	エコロジー (エコ) (2000年~)
	<p>「つ」「い」「っ」「た」「ー」</p>	<p>「え」「こ」「ろ」「じ」「ー」</p>
手話	2010年に手話確定(※)	2008年に手話確定(※)
	<p>指文字の「つ」を口元で持っている、前後へ2〜3回の繰り返しが特徴。</p> <p>小指がささずるイメージ</p>	<p>指文字の「え」を胸の前で1回、出す。</p> <p>握拳を表すイメージ</p>

活動コンセプト

製品・サービスの提供者は、このような困りごとをしっかりと受け止め、手話使用者にも安心して使える製品・サービスを提供していかねばなりません。



初年度の計画

- ① 有識者・当事者を交えた交流会、意見交換会等の開催
- ② 言葉や文化が異なる人々にもわかりやすい表現を目指した、新しい手話の検討
- ③ 新しい手話を社会へ普及促進させる手段の検討

ただいま、活動メンバー募集中です！

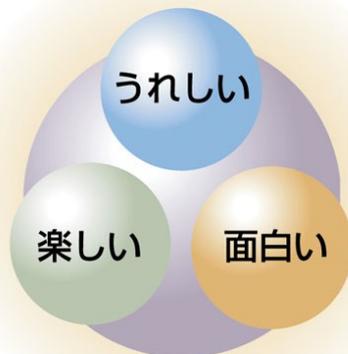
【暮らしのゆとり】

■余暇のUDプロジェクト：テレビコマーシャルにも字幕を

コンセプト

私たちは「うれしい、楽しい、面白い」をキーワードに余暇が充実する社会づくりを目指して活動しています。

誰もが参加できて！
出来なかった事ができて！



充実した時間を過ごせて！
わくわくする！

五感に感動の余韻が残って！
気持ちがとても新鮮になって！

プロジェクト活動

私たちは、メンバーの属性や特徴を活かしたテーマに取り組んでいます。月一回の定例会に加え、UD施設見学や有識者講演なども行っています。



参加メンバー

株式会社NTTデータ
大日本印刷株式会社
株式会社DNP映像センター
バイオニア株式会社
株式会社日立製作所
株式会社リコー
他賛助会員5名

メンバー14名

(うち聴覚障害6名、四肢障害1名、下肢障害1名、内部障害1名を含む)



余暇のUDプロジェクト | CM字幕の必要性

研究部会



パネル製作協力 花王(株) ライオン(株) (株)ニューメディア

CM字幕の意義

実際に CM 字幕のトライアル放送を見たお客様の声より

放送に対するアンケート 【資料提供:花王(株)】

- 大変立派なことでも今後も世界に羽ばたく企業になってほしいと願っている。
- 内容もよく理解でき、感動しました。そしてその製品を使ってみたいと思いました。
- 花王という会社に対するイメージも、あらゆるお客様を大切にしているんだと、改めて実感しました。



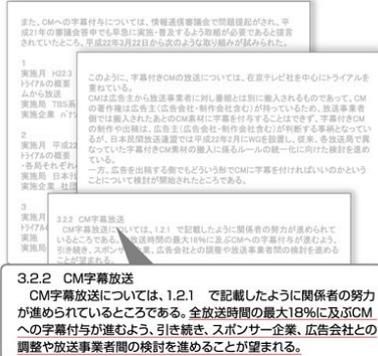
放送に対するアンケート 【資料提供:ライオン(株)】

- CMの字幕で商品が分かると値段に関係なく買いたくなった。
- 分かりやすく楽しい。購買意欲がわく。すべてのCMに字幕が付くことを願っています。
- 企業のイメージアップにつながる。

【月刊ニューメディア2011年3月号より抜粋】

これまで対象外とされてきた「約2000万人企業としての意義 ▶ いるとされる難聴者」が新たなマーケットを生み出します。

総務省もCM字幕に言及



平成24年度「デジタル放送時代の視聴覚障害者向け放送の充実に関する研究会」報告書より
総務省ホームページ http://www.soumu.go.jp/main_content/000160373.doc

CM字幕の本放送までと一歩のところまで来ており、ここからはCMを依頼する各企業の要望にかかっています。

ぜひ企業のCM担当の方は検討してみてください！

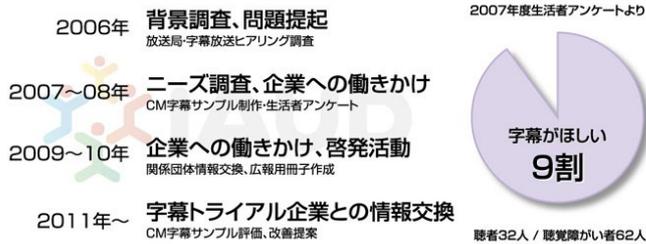
▼ 具体的にどうすれば良いの？ という疑問は下の資料をご覧ください。 ▼

余暇のUDプロジェクト | CM字幕実現までの流れ

研究部会



余暇のUDPJ CM字幕への取り組み



パネル製作協力 (株)電通

放送局、各団体、広告代理店の取り組み

- 民放連(放送局)**
設備開発・設置、放送ルール、放送確認システムの策定を進行中
- 広告業協会(広告代理店)**
制作体制・素材納品ルールの検討・準備
- 各団体**
トライアル放送への評価に協力

企業・放送局・広告代理店によるトライアル放送スタート



余暇PJでは、CM字幕普及活動やCM字幕フォーマット標準化への協力などを通じ、これからもCM字幕実現に向けて活動を続けていきます！

■メディアのUDプロジェクト①：UDとイメージに配慮した配色

多くの人に伝わる「カラーUD配色イメージ・スケール」

イメージと紐づいた配色活用の可能性を広げることをめざして、2010年に発表した「カラーUD配色イメージ・スケール<暫定版>」を精緻化しました。

1. 研究の経緯：

一般色覚の人が感じるイメージと紐づいた配色で、色弱の人にも判別できる配色バリエーションを研究している。2010年にカラーUD配色イメージ・スケール<暫定版>を発表。



カラーUD配色イメージ・スケール<暫定版>
協力：日本カラーデザイン研究所

2. 研究・開発：

カラーUD配色イメージ・スケール<暫定版>を色弱者による検証をした結果、精緻化にはより情報保障が確実な3色配色が必要となった。新しく導入した3色配色を、カラーUD検証ツールUDing、および色弱者検証で精査。



UDing CFUD × NCD H&T130C
協力：東洋インキ/日本カラーデザイン研究所

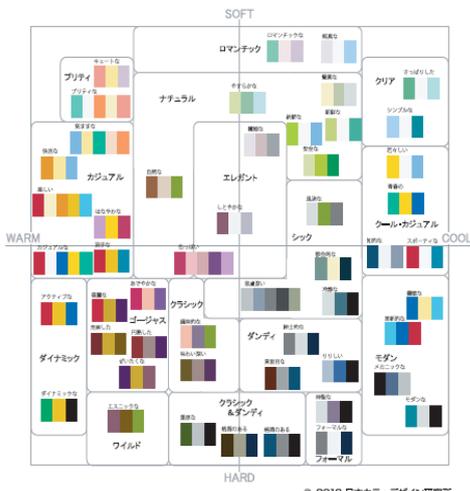


色弱者検証用のシートを作成
検証協力：カラーユニバーサルデザイン機構

●事例研究

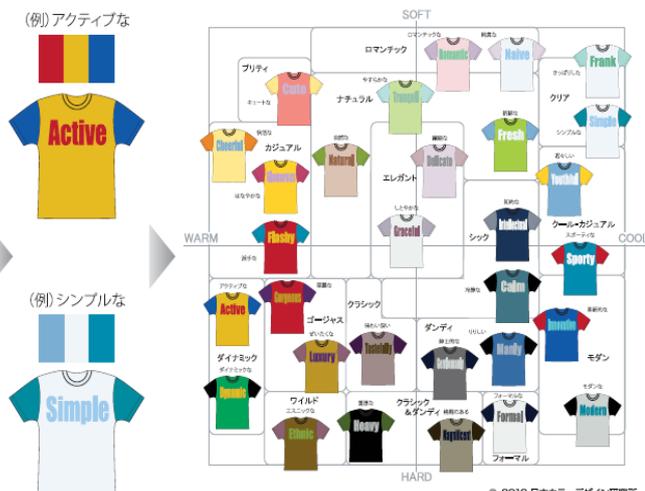
色の判別性を確保した、カラーUD配色イメージ・スケールを完成。完成したカラーUD配色イメージ・スケール<第1版>を事例に展開。

●カラーUD配色イメージ・スケール<第1版>



© 2012 日本カラーデザイン研究所

●カラーUD配色イメージ・スケールの適用例<ユニフォーム>



© 2012 日本カラーデザイン研究所

多くの人に伝わる「カラーUDグラデーション」の研究

より多くの人に直感的に伝わるグラデーション（色使い）を開発し、ハザード情報等への活用をめざしました。

1. 課題の発見：

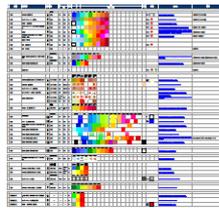
東日本大震災後に各種警戒表示を調査したところ、気象情報やハザード情報の「色使いが統一されていない」、「色の連続性を感じられない」ものがあった。

2. 研究目的：

誰にでも連続的な変化が感じられるグラデーションを開発、気象情報やハザード表示に活用される。

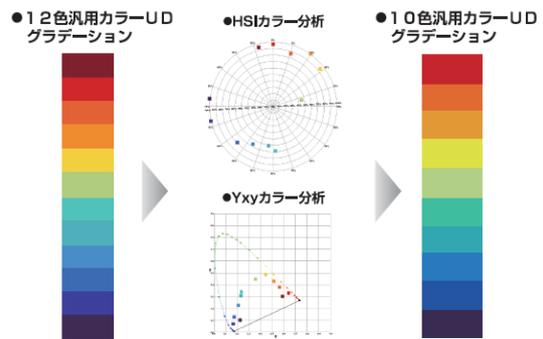
3. 事例研究：

気象情報やハザード情報の凡例にある色表示を収集し、傾向を分析。色弱者にも、見分けやすいグラデーションを検討。



4. 研究開発：

- ①12色汎用カラーUDグラデーションの試作
- ②一般色覚者・色弱者のモニタリング（12色汎用カラーUDグラデーション）
- ③カラー分析ツールによる解析と評価
- ④10色汎用カラーUDグラデーションの完成

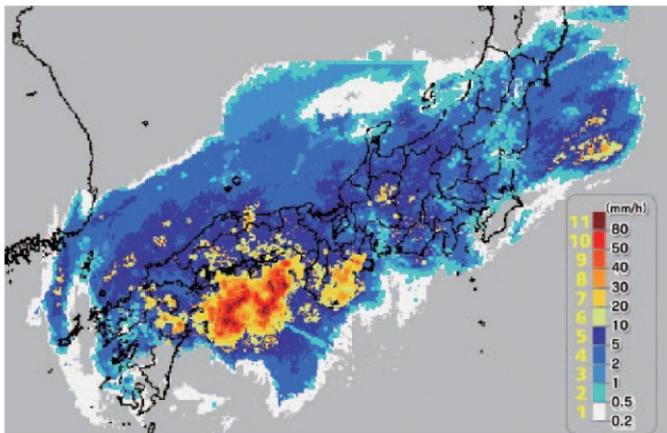


※本グラデーションはRGB値における色再現を想定しています。印刷色は、実際の色とは異なります。

●適用事例

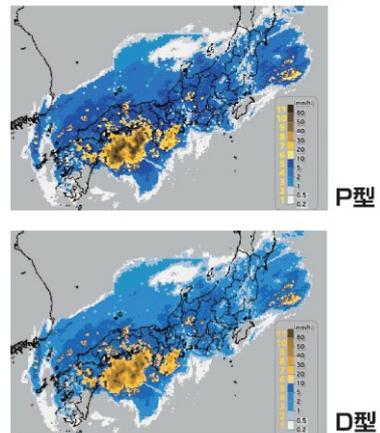
汎用カラーUDグラデーションを試験的にハザード情報に使用した場合を分析。その内容をもとに「気象情報の配色に関する設定指針（気象庁）」策定^(※1)に協力。

●降水強度分布観測データ（メディアのUDプロジェクト案）



※1 日本気象協会、東京大学分子細胞生物学研究所、カラーユニバーサルデザイン機構との共同チームにより実施

●色覚シミュレーション例（※2）



※2 色覚シミュレーションは配色の見分けやすさを確認するもので、実際の色の見え方を再現したものではありません。

今後の展開：

カラーUDグラデーションの周知とハザード利用以外の可能性を探求する。

国内外の UD 動向

■第 96 回かわさきデザインフォーラム開催

産業デザインの振興を通じて、中小企業等の高付加価値化と経営革新に資することを目的に、産業デザインを起点とする情報提供と参加者相互のネットワークづくりを促進している川崎市は、12月3日(月)15時30分から、川崎市産業振興会館9階第3研修室(川崎市幸区)にて、第96回かわさきデザインフォーラムを開催します。

今回は『ワクワクモノづくり』で経営革新～つくりたいモノをこっそりつくって商品化～」をテーマに、自社製品開発を多数コンサルティングしてきた(株)enmono代表取締役三木康司氏をお招きして、小規模自社製品開発の商品化事例や成功のコツ、陥りやすい落とし穴、最新のモノづくりの流れをお話ししていただきます。

詳細や参加申し込みはこちらをご覧ください↓

<http://www.kawasaki-net.ne.jp/design/kdf/annai.htm>

IAUD 2012年12月の予定

- 6日(木) 14時～余暇 UDPJ 見学会&定例会(富士通株小杉オフィス)
14時半～メディアの UDPJ 定例会(IAUD サロン)
- 7日(金) 14時～労働環境 PJ テレワークセミナー参加&定例会(東京 21C クラブ)
- 12日(水) 15時～情報交流センター会合(IAUD サロン)
- 13日(木) 15時～協同事業検討委員会会合(IAUD サロン)
- 14日(金) 14時～標準化研究 WG 定例会(IAUD サロン)
- 19日(水) 15時～実行委員会会合(IAUD サロン)
- 26日(水) 14時半～食の UDPJ 定例会(プロキューブ)

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちら↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

年末年始休業のお知らせ：

IAUD 事務局 12月27日(木)～1月4日(金)

IAUD サロン 12月26日(水)～1月4日(金)

次号は12月上旬発行予定

特集：IAUD アワード 2012 受賞紹介① 特別賞・寛仁親王賞受賞リコーグループの取り組み(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン)：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net